

宇部市民オーケストラ

第8回 気軽にアンサンブル

♪ 日時：2009年7月5日（日）午後2時開演

♪ 場所：男女共同参画センター・フォーユー3階ホール

♪ 主催：宇部市民オーケストラ、共催：宇部市定期文化講座講演会



本日は宇部市民オーケストラの「気軽にアンサンブル」にご来場いただきありがとうございます。今年は例年より少し遅い時期になりましたが、宇部オケの恒例行事として毎年開催してきて8年目となります。今回は男女共同参画センターの宇部市定期文化講座講演会との共催で、開催に当り大変お世話になりました。

今回は皆様方になじみの深い小品なども取り入れ、文字通り気軽にお楽しみいただければと考えております。初夏の日曜日の午後のひととき、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

プログラム



1. モーツァルト 木管3重奏のためのディベルティメント第2番
Cl：向山尚志、古田しおり、Fg：村上曜子
2. フンク 組曲 より（チェロ・アンサンブル）
Vc：藤野緑、加藤由香里、石井秀太郎、児玉佑司
3. ①エルガー：愛のあいさつ、②マクダウエル：のばらに寄す、
③モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク第3楽章、④いつか王子様が
（フルート2重奏）
FL：鈴木まさ子、宮崎真由美
4. 芥川也寸志 「弦楽のための三楽章」より第1楽章
Vn I：安永恵、朝日健一、池田芳江、香川早苗、佐貫政彰、田村紗季子、久井のり子、松井顕子
Vn II：在田和子、安楽由利子、池田英子、清水治子、縄田美言、村上由佳
Va：上野明弘、大元美子、濱野妙子、吉本久子、吉本宗明
Vc：今井健、加藤由香里、栗林宏明、黒川明德、Cb：藤野隆
5. スヴェンセン 「二つのスウェーデン民謡」より
（出演者は、4. と同じ）

— 休 憩 —



6. ①「椰子の実」、②「みかんの花咲く丘」、③「夏の思い出」（弦楽8重奏）
Vn：安永恵、松井顕子、清水治子、香川早苗、Va：濱野妙子、吉本宗明、
Vc：加藤由香里、栗林宏明
7. ダンツィ 管楽5重奏曲変口長調作品56-1
Fl：宮崎真由美、Ob：中村香織、Cl：向山尚志、Fg：村上曜子、Hr：藤本弥恵
8. バルトーク ルーマニア民俗舞曲
（出演者は、4. と同じ）

♪ 曲 目 紹 介 ♪

1. モーツァルト 木管3重奏のためのディベルティメント第2番

この曲は、もともとバセットホルン（低音域のクラリネット）3本のために書かれていますが、クラリネット2本とファゴットで演奏されるのが一般的です。ディベルティメントは「喜遊曲」と訳される明るい気軽な音楽で、モーツァルトはこの編成の曲を5曲作曲しています。今回はその第2番から、第1楽章アレグロ、第2楽章メヌエット、第3楽章ラルゲット、第5楽章ロンド、を演奏します。



2. フンク 「組曲」

フンク (1648-1699) は中期バロック時代ボヘミアに生まれた作曲家/器楽奏者/詩人/劇作家でした。優れた才能にもかかわらず精神的に不安定だったため、出版されたのは『ビオラ=ダ=ガンバのための舞曲集』のみと言われています。この組曲はその舞曲集の抜粋により構成されたものです。どの曲も=75 前後に設定された優雅な舞曲になっています。今回はその中よりアダージョ、フーガ、サラバンド、アルマンドを演奏します。

3. フルート2重奏

①エルガー作曲 「愛の挨拶」: イギリスの作曲家、エルガーが1888年に婚約者に婚約の記念に贈った曲です。ピアノ独奏、ピアノとヴァイオリン、小編成のオーケストラ用とありますが、今日はフルート2本で演奏します。

②マクダウェル作曲 「のばらに寄す」: 19世紀末に活躍したアメリカの作曲家マクダウェルのピアノ小曲が原曲です。1896年ピアノ曲集「森のスケッチ」の中の第1曲目として、ニューヨークで出版されました。

③モーツァルト作曲 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」から第3楽章
モーツァルト31歳のときの作品で、原曲は弦楽5重奏で、ドイツ語で「小さな夜の曲」という意味です。



④「いつか王子様が」: 1937年ディズニー映画「白雪姫」の中で歌われヒットしました。この曲は単なる映画音楽にとどまらず多くのミュージシャンの心を揺さ振り、数多くの名演奏を残しています。

4. 芥川也寸志 「弦楽のための三楽章」

芥川也寸志は、文豪芥川龍之介の三男で、戦後日本の現代音楽をリードした作曲家です。この曲には教会の祭壇などに見られる三連画を意味する「トリプティーク」という題が付けてあり、3つの楽章を3面の絵画として捉えています。今日演奏する第一楽章は非常に明るく潑刺としていて躍動的な楽曲です。



5. スヴェンセン 「二つのスウェーデン民謡」

スヴェンセンは、スウェーデン統治中のノルウェーのクリスチャニアに生まれ、指揮者、作曲家として名声を博し、特に大規模編成の管弦楽作品の作曲に力を注ぎ、存命中は高い人気を誇りました。親友のグリーグが、スヴェンセンの交響曲を聴いて、自作交響曲の演奏を禁じ、その後、交響曲の作曲を一切やめてしまったというのは有名な話です。この曲は題名通り、スウェーデン民謡を元に作られた曲で、特に2番目の曲は人気があり、リチャード・ダイベックの詩がついて、現在のスウェーデン国歌になっています。



6. 弦楽8重奏

① 「椰子の実」

明治31年若き頃の民俗学者柳田国男が、旅の途中、伊良湖岬の恋路ヶ浜で流れ着いた椰子の実を見つけました。この話を親友の島崎藤村にしたところ、彼はそれをもとに詩を詠み、後の昭和11年、大中寅二が曲をつけラジオで流れて広く知られるところとなりました。

② 「みかんの花咲く丘」

昭和21年、ラジオ番組に使う「静岡にふさわしい童謡」として作られました。放送終了後、初夏の素朴な情景を表現した詩のイメージと、のびやかな8分の6拍子のリズムにのった親しみやすい旋律とでこの歌は大反響を呼びました。

③ 「夏の思い出」

当時各界を代表する黄金コンビにより作成され、昭和24年『ラジオ歌謡』にて放送されるや否や、瞬く間に多くの日本人の心をとらえた名曲です。これで尾瀬の人気は飛躍的に高まったそうですが、尾瀬沼で水芭蕉が見られるのは5月末頃で、夏ではなく、作詞の江間氏が夏でも水芭蕉が見られるところで育ったための誤りとされています。



7. ダンツィ 管楽5重奏曲変ロ長調作品56-1

フランツ・ダンツィ (1763~1826) は、ほぼベートーベンと同時代のドイツの作曲家で、ミュンヘンなどの宮廷楽団員として活躍しました。今日知られている作品はいくつかの木管5重奏曲が主要なもので、本日はその第1番を演奏します。木管5重奏は5種類の異なる管楽器で演奏される作品で、この曲はそれぞれの楽器の音色や特徴を活かしたメロディーが魅力的な作品となっており、4つの楽章で構成されています。

8. バルトーク作曲 「ルーマニア民族舞曲」

① 棒踊り ② 飾り帯の踊り ③ 踏み踊り ④ 角笛の踊り ⑤ ルーマニア風ポルカ ⑥ 速い踊り

この曲は、ハンガリーを代表する音楽家バルトークが1915年に作曲した6曲からなるピアノの組曲を弦楽合奏用に編曲したものです。作曲家自身、1917年に小管弦楽用に編曲しています。当時ハンガリー王国の一部であったルーマニアの各地の民謡を題材にしたもので、その親しみやすい旋律と手ごろな長さから彼の小品の中では人気が高く、様々な編曲でコンサートに取り上げられることの多い曲です。



<会場の皆様も一緒に歌いましょう>

「椰子の実」 島崎藤村 作詩 大中寅二 作曲

1. 名も知らぬ 遠き島より 流れ寄る 椰子の実一つ
故郷（ふるさと）の岸を 離れて 汝（なれ）はそも 波に幾月（いくつき）
 2. 旧（もと）の木は 生（お）いや茂れる 枝はなお 影をやなせる
われもまた 渚（なぎさ）を枕孤身（ひとりみ）の 浮寝（うきね）の旅ぞ
 3. 実をとりて 胸にあつれば 新（あらた）なり 流離（りゅうり）の憂（うれい）
海の日 沈むを見れば 激（たぎ）り落つ 異郷（いきょう）の涙
- 思いやる 八重（やえ）の汐々（しおじお） いずれの日にか 国に帰らん



「みかんの花咲く丘」 加藤省吾 作詞 海沼実 作曲

1. みかんの花が 咲いている 思い出の道 丘の道
はるかに見える 青い海 お船がとおく かすんでる
2. 黒い煙を はきながら お船はどこへ 行くのでしょうか
波に揺られて 島のかげ 汽笛がぼうと 鳴りました
3. 何時か来た丘 母さんと 一緒に眺めた あの島よ
今日もひとりで 見ていると やさしい母さん 思われる

「夏の思い出」 江間章子 作詞 中田喜直 作曲

1. 夏が来れば 思い出す 遥かな尾瀬 遠い空
霧の中に 浮かび来る 優しい影 野の小道
- 水芭蕉の花が 咲いている 夢見て咲いている 水のほとり
石楠花(シャクナゲ)色に 黄昏(タソガレ)る 遥かな尾瀬 遠い空
2. 夏が来れば 思い出す 遥かな尾瀬 野の旅よ
花の中にそよそよと ゆれゆれる 浮き島よ
- 水芭蕉の花が 匂っている 夢見て匂っている 水のほとり
まなこつぶれば なつかしい 遥かな尾瀬 遠い空

